

山麓探偵団通信

6月号

五月の探偵団も天候に恵まれ、須走のまぼろしの滝を八名で探索しました。

参加者は異口同音に、楽しかった一日を語りましたが、「水はこうして循環して生きている」を実感された方の足取りも、きつと生き生きしていたことでしょう。

▼参加者の感想

友人から誘われ、今回初めての山麓探偵団への参加でした。

まるで遠足の前日のようで、なかなか眠れませんでした。

幼少時、裏山へ探検に出かけ、泥棒草を付けて帰ってきたことを、ふと思いだしました。

大人になり、初めて山へ登る。どんな感覚なんだろう。

そんな思いを胸に、すばしり道の駅で集合して、二台の車に分乗し須走口五合目に移動しました。荷物や足元を整えいよいよスタートです。

その名の通り、この時期限定の、日射による雪解けからできる滝を目指しました

歩きなれないスコリアをみんなで急ぎ、幻の滝の現れる沢に到着しました。

その滝は、本当に水の色や音がなんとも美しい。心のなかもデトックスされている様でした。しばらく滝の流れの先端などを確認して向かい側の土手に登り、滝の上流部を探検です。



一歩一歩登るたびにキレイな花や鳥にも出会いました。ふと後ろを振り返ると、麓のほうに日本とは思えない景色が広が

っていました。

上流から滝に沿って降りてくると、小さな滝の支流がいくつもあり、さらに感動しました。

最後にすばしり道の駅に降りてから、さっきまで登っていた富士山に見守られながらみんなで入った足湯が、また気持ちよくて最高でした。そして、子どものように、はしゃぎ、笑いました。

初めての幻の滝と、皆さんとの出会いに感謝です！ (H・O)

▼六月の探偵団活動予定

自然に浸る・自然とつながる

(山水・石・そして火)

第二七八回目の探偵団は、今年も戸高雅史さんを団長に、野外での一泊体験を予定しています。初夏の山道をゆっくりふみしめ、山の中腹の沢筋で夕暮れを迎え、そこで火を焚いておもしろいおもしろい一晩をすごします。

ふだんほとんど実感することのない、生身の自然と生身の自分とのぶつかり合いの中で、戸高さんが、単独無酸素で標高八〇〇〇メートルを超えるヒマラヤ登山で体験された貴重なお話、または富士山との新しい出会いなどについて語り合ったりしましょう。水や風の音とポケット楽器のセッション

も楽しめるかも知れません。

【今回は、八名限定です。】

・日時 六月二十九日(土) 午前十一時あみんに集合 翌三十日(日) 午後三時解散

・参加費 八三〇〇円(ガイド代、夕食・朝食・ヘルメット・沢シューズ貸与・保険代含む)

・持ち物 当日の昼食、食器(皿・椀・ハシ)、火にあぶる夜食およびおやつ、行動食(翌昼の道中用、カロリーメイトなど)、防寒着、着替え、トイレ用袋、銀マット、シュラフ(五〇〇円でレンタル可)、その他、任意ですが、ヘッドライトや懐中電灯なども便利です。また、ポケット楽器もあれば楽しいでしょう。

◎申し込み 今回は八名限定です。ので六月二十三日(日)までにお申し込みください。

◆尚、次回七月二十日(土)は、昆虫学者の林正美先生を団長にお迎えして、山麓の里山や水辺の昆虫たちを、探したり学んだりします。(詳細は次号)

発行 山麓探偵団 事務局
山梨県山中湖村平野一六九八
電話 〇五五五・六五・七〇二三